平成 ２９年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　千葉県　】

１ 実践テーマ	【　Ⅲ　Ⅳ　】
２ 実施対象者	学校名　山武市立山武南中学校 対象学年　全校 人数　１８５人
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ①教科名（　社会、総合、道徳　） ２　行事名（　　） ３　その他（　　） （２）地域における活動 １　イベント名（　　） ２　その他　（　　）
４ 目　標 （ねらい）	共生社会の形成を目指し、他者を理解しようとする気持ちを育てる。 ・障がい者や高齢者等、他者の理解を深める。 ・障がい者スポーツなどを通じて、互いに支えあい、認め合える心を育てる。
５ 取組内容	**【車いすバスケットボール】（全学年）** 「支えあい、共に生きる社会を目指して」をテーマに道徳の授業を２回行った。１回目の授業は、学校で使用しているチョークを作っている日本理科学工業の取り組みを取り上げ、障がい者と健常者が共に働く社会づくりに必要なことについて考える授業を行った。２回目は、障がい者への援助について考える資料で授業を行った。 ２回の学習のまとめとして、車いすバスケットボールチーム「千葉ホークス」の選手４名を迎え、体験型の授業を行った。生徒は，選手４名のウォーミングアップやプレーを見て、そのプレーが，選手の並々ならぬ努力によって実現していることを知った。また、希望者を募り、実際の競技で使用している車いすを操作して、パスやシュートの体験を行ったり、選手と共にプレーしたりすることで、車いすバスケットボールを身近

	に感じることができた。更に、その後に行われた講演や質問の時間で、選手の苦労や努力について知り、理解を深めた。 　これらの取り組みを通して、障がい者との共生について、深く考える時間を持つことができた。 **【スポーツ義足体験】（1年生）** 　LIXIL 主催で、リオパラリンピックの４００ｍリレー銅メダリスト佐藤圭太選手を迎え、体験型の授業を行った。 　最初に、佐藤選手がつけている義足を、生徒が持って重さ等を確認した後、義足をつけて歩く体験を行った。佐藤選手とスタッフが補助をして、全員が体験したが、実際に体験することで、義足をつけて歩いたり、走ったりすることの難しさを実感することができた。 　その後、佐藤選手とスタッフを講師として、義足の種類や、義足をつけている理由、「義足をつけてのスポーツはずるいか？」など、子どもたちに考えさせる発問を多く取り入れた授業展開を行った。また、体験したことを振り返りとして質問することで、メインの発問について深く考える時間をとることができた。 　生徒は、「義足で不便と思うことがそんなにないと聞いて、とても驚いた」「義足についてのイメージが１８０°変わった」など多くのことを感じ、たいへん貴重な経験となった。
６ 主な成果	・障がい者への理解が深まり、互いに支えあい、認め合うことの大切さを学んだ。 ・パラリンピック競技について知ることができ、東京パラリンピックへの意識が高まった。
７ 実践において工夫した点（事業の特色）	**【車いすバスケットボール】** ・障がい者と健常者が共生するために、どんなことが必要か、道徳の時間に考えることで、実際の体験によって、考えが深化できるようにした。 **【義足体験】** ・生徒の意欲を高めるために、座学の学習だけではなく、生徒が活動する内容を取り入れた。
８ 主な課題等	・ゲストを招くための日程調整に関して、多くの調整時間を費やすことになった。 ・学校だけの都合では、決められないこともあり、授業の目標に合ったゲストを探すことも課題である。 ・継続的な取組をしていき、２０２０年にどうつなげていくか、長期的な計画を立てる必要がある。
９ 来年度以降の実施予定	・他者を理解しようとする気持ちを育てる授業を展開する。 ・東京オリンピック・パラリンピックへの意識を高めていくために、ゲストを招いて講演会を実施する。